

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320129

研究課題名(和文)高野山宿坊史料の悉皆調査に基づく高野山子院と地方大名家との師檀関係の研究

研究課題名(英文)A study of relation for district's Daimyou and Kouyasan based on research of kouyasan shukubou's historical materials

研究代表者

佐々木 倫朗(SASAKI, Michiro)

大正大学・文学部・教授

研究者番号：80280907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,900,000円、(間接経費) 2,070,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、金剛三昧院・桜池院等の史料を調査することにより、高野山の宿坊史料の全体像を提示し、地方大名家の供養帳の史料的性格を明らかにし、大名家供養帳の成立と大名権力の確立との密接な関連性を考察することを目的とした。

上記の研究のため、金剛三昧院については、平成23年度より経蔵内及び本堂に所在する史・資料の調査を行い、519点の供養帳を確認し、今まで存在が知られていなかった中・近世の多数の史料を確認した。

桜池院については、諏訪・武田氏との関わりを中心としながら、調査を行い、中・近世の供養帳・新出文書を確認し、貴重な戦国期の供養帳に関しては、翻刻を行い、その史料的性格を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：I tried to show the perspective of dorter historical materials of Kouyasan based on research the historical materials of Kongozanmaiin and Youchiin, clarified the character of the historical materials of the memorial service book of the district Daimyou, and this study was intended that the establishment of the memorial service book considered establishment of the Daimyou power and a thing concern ed with closely.

About the Kongozanmaiin was absorbed in, I investigated the document in the history located in the Hondo and Kyougura from 2011 and confirmed 519 points of memorial services book and confirmed the document when existence was not confirmed so far.

I investigated Youchiin while doing a relation with Suwa, Takeda with the center and confirmed a memorial service book, a new appearance document and, about the memorial service book for the valuable war-torn country period, reprinted it and clarified the character of the historical materials.

研究分野：史学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：史料学 大名権力 高野山 供養帳

1. 研究開始当初の背景

高野山宿坊に残る聖教・古文書・供養帳などの膨大な史料群については、金剛峯寺編『高野山文書』(1936年)が刊行され、第一巻～第四巻の中で地方大名からの書状が紹介されたものの、その後の調査は遅れた。最近では正智院については、山本信吉が『正智院文書』(吉川弘文館、2004年)・同『正智院聖教目録』上・下(吉川弘文館、2006年～2007年)を刊行して、文書・聖教の目録化を行ったが、供養帳・過去帳は除外されている。金剛三昧院については、上蔵院旧蔵の古文書・供養帳類のみが部分的に紹介されている(土居聡朋・山内治朋「高野山上蔵院文書について」、『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』11～13号、2006～2008年。川岡勉『高野山上蔵院文書の研究』、愛媛大学教育学部、2009年)。高室院については1980年代の調査に基づき、『寒川町史資料所在目録』第16集(2006年)として、同院所蔵の古文書・供養帳が目録化された他、近世高室院の廻壇の実相が検討されている(『寒川町史研究』4号・22号の特集「高野聖と相模国」、1991年・2009年)。また、村上弘子は『高野山信仰の成立と展開』(雄山閣、2009年)において、後北条領国への高室院僧の廻国と師檀関係についても究明している。

研究分担者の山本隆志は、清浄心院供養帳の整理・調査を1990年代に実施し、成果を「高野山清浄心院史料」(平成12～15年度科学研究費補助金・基盤研究(B)研究成果報告書『奥羽地方における宗教勢力展開過程の研究』所収)として発表した。またその後補充調査した越後の供養帳は「高野山清浄心院『越後過去名簿』写本」(『新潟県立歴史博物館研究紀要』9号、2008年)として公表した。

このように、史料を持つ宿坊は50を数

えると推定されるなかで、調査が進められているのは、わずかである。また供養帳を含めた全貌把握については、さらに遅れている。

佐々木倫朗(研究代表者)・山本隆志(研究分担者)・丸島和洋(連携研究者)の3人は、2008年より金剛三昧院の調査を始めている。調査は悉皆を原則にして、経蔵をはじめとする所蔵箇所を網羅的に調べ、一部の目録作成を進めている。佐々木と丸島は、戦国大名研究を専門とするので、金剛三昧院に宛てられた書状類の考察を進めて、金剛峯寺編『高野山文書』にも収録されていない文書を少なからず発見している。

また山本と丸島は2002年より桜池院の史料調査を行い、武田家供養帳・大内家供養帳など新出史料を多く発見し、同院に合併された成慶院史料が多数伝存していることを確認した。丸島は、これらの史料を戦国大名武田氏研究に活用して、高遠諏訪家供養帳作成と、武田勝頼の高遠家への入嗣の関係を考察し、先代高遠頼継を供養することで、同家の祭祀継承者という立場の表明であることを示した(『戦国期武田氏権力の研究』、2007年度慶應義塾大学博士論文、2011年2月刊行、思文閣。初出『戦国史研究』53号、2007年)。また丸島は、桜池院および蓮華定院所蔵の供養帳を用いて信濃伴野氏の系譜復元を行っているが(「戦国期信濃伴野氏の基礎的考察」、『信濃』705号、2008年)、武田領国にあっても、信濃の国衆のなかには武田氏とは別の子院と師檀関係を結んでいるものが多数存在しており、戦国期における国衆が、戦国大名家中に包摂されていないことの端的な現れである。

また佐々木は戦国大名佐竹氏の研究をまとめたが(『戦国期権力佐竹氏の研究』、2008年度筑波大学博士論文、2011年3月刊行、思文閣)、佐竹家中が秋田移転後

も清浄心院との師檀関係を維持し、これが秋田佐竹家（藩）の一つの基礎となったことを予見的に示した。大名家中は、同じ法統の僧侶により供養される人々として存続していると意識されている。おなじ寺（院）でかつ法統が同じ僧に供養されることにより、家中の人々は先祖の法縁が同じとなるのである。研究分担者の山本は、下野那須の大関高増が娘婿の千本常陸守子息を殺害し、供養したことを明らかにしたが（『鹿沼市史通史編1』、2004年）、これも敵対者をも自己の法縁に取り込む行為であった。そうすることにより、新しい千本家中をも政治的支配下に置こうとする意図が窺えるのである。供養が政治的な問題であり、おなじ供養帳に入ることが、おなじ家中に入ったという事実を表現している。

高野山子院には、大名家供養帳だけでなく、大名領国住人を対象とした戦国期以来の供養帳が多く残されている。これらの地域別供養帳は、高野山子院が大名と師檀関係を結んでその領国を檀那場とした結果作成されたものであり、大名家中の人間が多く記されている。丸島は桜池院に伝わった旧成慶院供養帳のうち、武田領国である甲斐・信濃分の翻刻公開を進め（「高野山成慶院『甲斐国供養帳』（一）～（三）』、『武田氏研究』34・38・42号、2006年～2010年。「高野山成慶院『信濃国供養帳』（一）』、『信濃』719号、2009年）、これらの供養帳が、大名家供養帳を作成する際の原本となっており、個々の供養帳ごとに性格や成立経緯が異なることを確認した。これは清浄心院供養帳を検討した遠藤巖の指摘（「『高野山清浄心院所蔵仙北三郡過去帳』』、『郷土史の先覚深澤多市』、2006年）を踏まえたものである。

このように、高野山宿坊に大量に残されている史料に関しては、その一部の宿坊の史料のみ調査が行われるにとどまり、その

翻刻と紹介が行われているに過ぎない状況である。特に、宿坊に所蔵されている聖教・古文書・供養帳等の史料を全体的に目録化して、史料群としての全体像や史料相互の関係から個々の史料の性格を検討する研究は未だ不十分な状況にある。

2. 研究の目的

本研究は、このような背景を踏まえ、金剛三昧院・桜池院の史料を悉皆調査することにより、宿坊史料の全体像を提示し、地方大名家との師檀関係形成を意味する大名家供養帳の史料的性格を明らかにするとともに、大名家供養帳が大名権力の確立と密接に関わっていることを考察する。

金剛三昧院や桜池院所蔵の供養帳は、戦国期以来の原本と、江戸期の清書本、さらにはその下書きや部分抽出本など多様な性格を持つものが混在している。各供養帳を研究に用いるには、相互の関係を検討し、それぞれの成立経緯を考察する必要がある。

これは大名家供養帳についても同様であり、なぜ大名家に特化した供養帳が作成されるのか、そしてそれがどのような時期に、どのような契機で作成されたのかを追求する必要がある。金剛三昧院・桜池院所蔵史料は、この点を明らかにする上で適した素材であるといえる。

このように、未紹介である高野山宿坊史料の中核をなすと思われる供養帳・過去帳のうち、大名家供養帳が作成される背景を、宿坊側の問題として、また大名家側の問題として、その両方から考察することを、研究目的とした。

史料論としては、大名家供養帳が宿坊史料全体のなかで占める位置を悉皆調査によって明らかにし、大名家供養帳がどのような契機で作成されたのかを究明する。その際、宿坊側・大名家側の双方の観点から検討することで、両者をつなぐ史料群として供養帳の位置づけをはかることを目的とし

た。

3. 研究の方法

研究期間は3年間と予定し、その間に金剛三昧院史料を、個別研究に有益な史料を抜き出す形態の調査ではなく、近世・近代文書を含めた史料群全体を把握する調査を行い、完了することを計画した。金剛三昧院の史料は、経蔵と特別書庫に収蔵されていることを確認しているが、その史料全体を調査し、目録を作成した。そして2008年からの調査の結果、存在が確認された諏訪家供養帳については、翻刻して公開するとともに、諏訪家が戦国大名武田家に包摂されていく過程との関係を検討し、武田家中の実態解明を進める。また桜池院に補充調査をおこない、所蔵史料目録を作成した。

そして、桜池院所蔵の保科家供養帳（成慶院旧蔵）、清浄心院所蔵の古河公方家供養帳を翻刻して公開し、東国の戦国権力と供養帳作成とが関係していることを解明した。

4. 研究成果

研究計画に基づいて金剛三昧院・桜池院の資料調査と調査データの整理作業を進めた結果、桜池院に関する史料目録の作成を終了することができた。史料目録の内容としては、資料の作成年次・作成者・受給者・概括的な史料の内容・法量・特記事項等を記録した。

桜池院は、近世に成慶院・輪蔵院を併合したが、下野・武蔵も檀那場としていた。研究代表佐々木倫朗は、『下総・武蔵・諸国供養帳』を「高野山櫻池院『下総・武蔵・諸国供養帳』(その一)」(『栃木県立文書館研究紀要』17号、2013年)において、一部紹介した。また、連携研究者の丸島和洋は、『甲斐国供養帳』や『信州月牌帳』について数度にわたって紹介した。そして、

その記載の検討の結果、供養帳ごとに性格や成立経緯が異なり、記載方法が異なることを確認した。これは、作成目的や作成の時期の違いによるものであることを推論することができた。

金剛三昧院については、重点的に所蔵資料の調査を行い、史料目録の作成を進めた。その過程で、金剛峯寺編『高野山文書』に収録されていない中世文書を少なくない数を発見し、その一部を山田雄司「史料紹介 柿木鏝字縁起」(『三重大史学』12号)・丸島和洋「高野山金剛三昧院所蔵『奥平家中集位牌帳』」(『年報三田中世史研究』20号)・「史料紹介 高野山金剛三昧院所蔵中性院『奥平家過去帳』」(『年報三田中世史研究』19号)等において公表した。また、近世文書に関しては、肥前佐賀藩・伊勢津藩との交渉を伝える文書や大量の地方檀那場との関係を示す文書を調査において確認し、目録化した。そして、桜池院と比較しながら、大名との交渉過程の分析を踏まえながら、大名供養帳の性格を検討する作業を進めた。

しかし、平成24年度末の調査の最中に金剛三昧院の経蔵において大量の未調査・未紹介の史料を発見し、以後その調査に逐われてしまうことになった。その結果、金剛三昧院の資料調査としては、全体の約3/4の過程を消化したにとどまる状況にある。

以上のように、金剛三昧院において調査期間の総括段階に入る時期に当初の予想に反して大量の未発見史料を確認したため、それらの調査を全て終了しないと、本研究の総括は不十分であり、その総括を行うために、今後も金剛三昧院の調査を継続し、史料目録の集成を行う。それを受け、大名家との交渉の分析を通じて供養帳の史料的性格をより明確にし、大名権力の形成と供養帳の作成との関連性を明らかにすること

を今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11件)

- 1) 佐々木倫朗「高野山櫻池院『下総・武蔵・諸国供養帳』(その一)」(『栃木県立文書館研究紀要』17、査読無、p79-111、2013)
- 2) 丸島和洋「高野山金剛三昧院所蔵『奥平家中集位牌帳』」(『年報三田中世史研究』20号、査読無、p135-153、2013)
- 3) 佐々木倫朗「中近世転換期における地方修験の存在形態」(山本隆志編『日本中世政治文化論の射程』、思文閣出版、査読無、p183-203)
- 4) 山田雄司「初期足利政権と北野社 御師職を中心に」(山本隆志編『日本中世政治文化論の射程』、思文閣出版、査読無、p24-40、2012)
- 5) 山田雄司「[史料紹介]柿木鏝字縁起」(『三重大史学』12号、査読無、p.1-9、2012)
- 6) 丸島和洋「史料紹介 高野山蓮華定院『真田御一家過去帳』(上)(下)」(『信濃』64巻10号、p63-76・64巻12号、p.3-79、査読有、2012)
- 7) 丸島和洋「史料紹介 高野山金剛三昧院所蔵中性院『奥平家過去帳』」(『年報三田中世史研究』19号、査読無、p80-131、2012)
- 8) 丸島和洋「『戦国遺文武田氏編』補遺」(『武田氏研究』45号、査読有、p37-60、2012)
- 9) 丸島和洋「史料紹介 高野山成慶院『信濃国供養帳』(二)『信州月牌帳 三』」(『信濃』64巻1号、査読有、p57-78、2012)
- 10) 古川元也「円覚寺智真『夢記』と『仏日庵公物目録』」(『神奈川県立歴史博物館研究報告』38号、査読無、p1-14、2012)
- 11) 三浦龍昭「新室町院珣子内親王の立后と出産」(宇高良哲先生古稀記念論文集刊行会

編『宇高良哲先生古稀記念論文集 歴史と仏教』、文化書院、査読無、p519-534、2012)

[学会発表](計 0件)

[図書](計 4件)

- 1) 丸島和洋『戦国大名の「外交」』(講談社選書メチエ、全272頁、2013)
- 2) 佐々木倫朗『戦国期権力佐竹氏の研究』(思文閣出版、全284頁、2011)
- 3) 丸島和洋編『甲斐小山田氏』(岩田書院、全304頁、p1-2,7-56、2011)
- 4) 丸島和洋『戦国大名武田氏の権力構造』(思文閣出版、全423頁、2011)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 倫朗 (SASAKI, Michiro)
大正大学・文学部・教授
研究者番号：80280907

(2) 研究分担者

山本 隆志 (YAMAMOTO, Takashi)
筑波大学・人文社会科学部・教授
研究者番号：50191416

坂本 正仁 (SAKAMOTO, Masahito)
大正大学・文学部・教授
研究者番号：00235186

山田 雄司 (YAMADA, Yuji)

三重大学・人文学部・教授
研究者番号： 90314103

山澤 学 (YAMASAWA, Manabu)
筑波大学・人文社会科学研究科・准教授
研究者番号： 60361292

古川 元也 (FURUKAWA, Motoya)
神奈川県立歴史博物館・学芸部・主任学芸員
研究者番号： 60332392

三浦 龍昭 (MIURA, Tatsuaki)
大正大学・文学部・専任講師
研究者番号： 10587299

(3)連携研究者

丸島 和洋 (MARUSHIMA, Kazuhiro)
国文学研究資料館・研究部・助教
研究者番号： 10599640